

ヒヤリ・ハット調査
「シニア世代の身の回りの危険」
(シニア世代のヒヤリ・ハット/基本調査)

平成24年2月

東京都生活文化局消費生活部

目 次

1. 調査目的	1
2. 調査概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査内容	1
(5) 回答者の属性	1
3. 調査結果	2
(1) 全体的な傾向	2
(2) 台所	5
(3) 浴室・洗面所・トイレ	8
(4) 居間	10
(5) 寝室	13
(6) 屋外・ベランダ	15
(7) その他（階段・段差等）	17
4. まとめ	19
5. 結果の活用	19

1. 調査目的

日常生活で経験した「ヒヤリ・ハット」体験はどこへも情報提供されることなく多数埋もれていることから、都では、危害危険情報を積極的に掘り起こすため、ヒヤリ・ハット調査を実施している。

今回は、ほんの少しの不注意が大きなケガにつながることも多い「シニア世代の身の回り」をテーマに調査を実施した。

2. 調査概要

(1) 調査対象

東京都に居住する 60 歳以上の男女 3,000 人（インターネットアンケート登録モニター）

(2) 調査期間

平成 22 年 12 月 27 日～平成 23 年 1 月 12 日

(3) 調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

(4) 調査内容

本調査では、台所、浴室、居間、寝室、屋外、その他の場所に分け、日常生活で使用する具体的な製品名をあげて、過去 5 年以内のヒヤリ・ハットや危害経験の有無を聞いた。次に、ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答したものについて、危害の程度を選択式の設問で聞き、さらに、各場所のヒヤリ・ハットや危害経験の中からひとつを選んでその具体的な内容を記述式の設問で詳しく聞いた。

(5) 回答者の属性

回答者の年代別割合は、60 歳代が 62.4%、70 歳代が 31.6%、80 歳以上が 6.0%だった。男女比は、全体として男性 58.9%、女性 41.1%だった。

なお、60 歳以上は、インターネットアンケート登録モニターが少ないため、同居している家族による代理回答を併用した。

	男女計(人)		男性(人)		女性(人)	
		内、代理回答		内、代理回答		内、代理回答
合計(人)	3,000	636	1,766	219	1,234	417
年代別割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
60歳代(人)	1,873	127	1,142	60	731	67
年代別割合(%)	62.4	20.0	64.7	27.4	59.2	16.1
70歳代(人)	948	330	561	96	387	234
年代別割合(%)	31.6	51.9	31.8	43.8	31.4	56.1
80歳以上(人)	179	179	63	63	116	116
年代別割合(%)	6.0	28.1	3.5	28.8	9.4	27.8

ヒヤリ・ハット ケガはしなかったが、ヒヤリとしたりハットとした事例
危害 ケガをした事例や発火・発煙・引火等重大な事故につながるおそれのある事例
「ケガ」には、やけどやかぶれ、呼吸困難、具合が悪くなった等も含まれる。

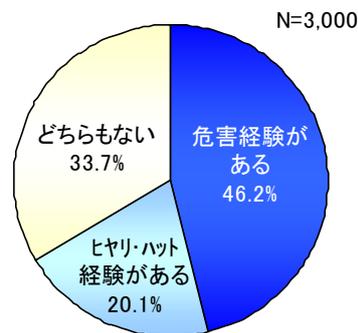
3. 調査結果

(1) 全体的な傾向

ア 回答者別にみたヒヤリ・ハットや危害の経験

図1は、回答者別に過去5年以内のヒヤリ・ハットや危害経験の有無を集計したものである。3,000人の回答者のうち、主に日常生活で使用する製品等で少なくとも1つ「危害経験がある」と回答した人は1,387人(46.2%)、危害経験はないものの、「ヒヤリ・ハット経験がある」と回答した人が602人(20.1%)だった。これらを合わせると1,989人(66.3%)の回答者が日常生活でヒヤリ・ハットや危害を経験していることがわかった。

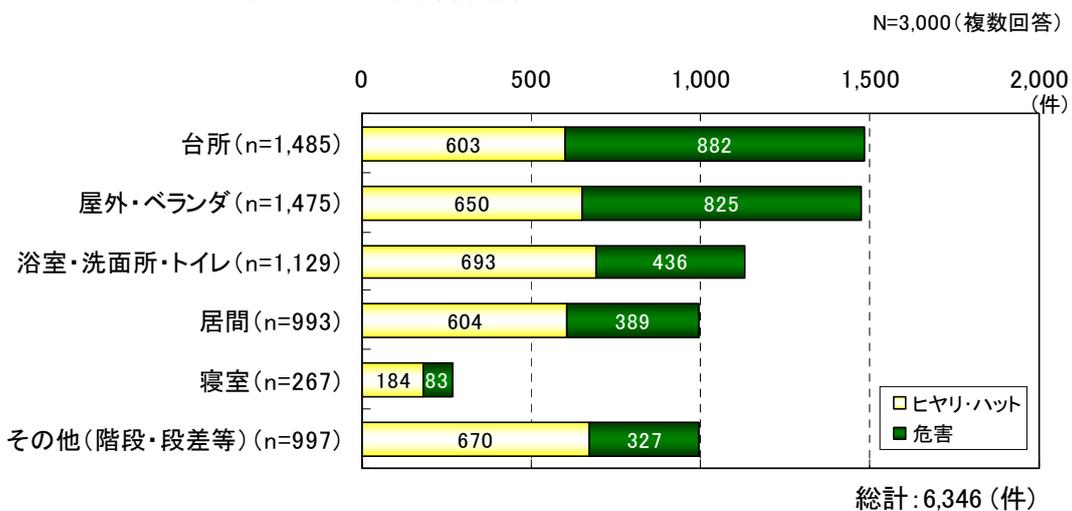
図1 回答者別にみたヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験の場所別集計結果

図2は、日常生活で使用する各製品でヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答した人の数を場所別に合計したものである。場所別でみると、「台所」が最も多く、次に「屋外・ベランダ」が続いている。全体としては、6,346件(ヒヤリ・ハット：3,404件、危害：2,942件)のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。

図2 ヒヤリ・ハットや危害経験の場所別集計結果



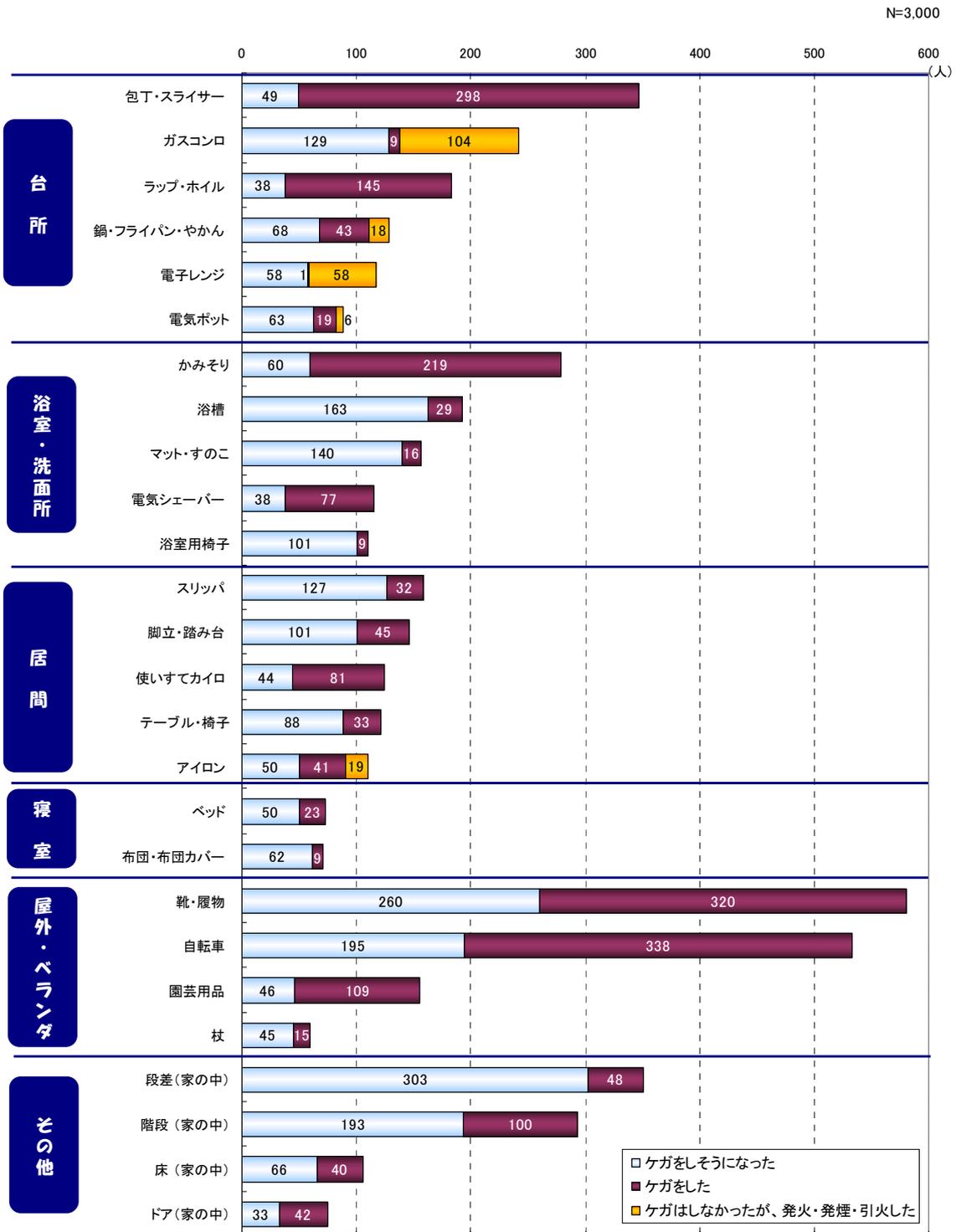
※本報告書における注意事項

- ・グラフ上の「N=○」(○は数字)は、アンケート対象者の数を示す。
- ・グラフ上の「n=○」(○は数字)は、アンケート対象者のうち、ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答した人の数を示す。
- ・回答比率(%)は、少数第2位を四捨五入して表示している。
- ・グラフ上の「(○/○)」(○は数字)は、(ヒヤリ・ハット経験者の数/危害経験者の数)を示す。

ウ ヒヤリ・ハットや危害経験

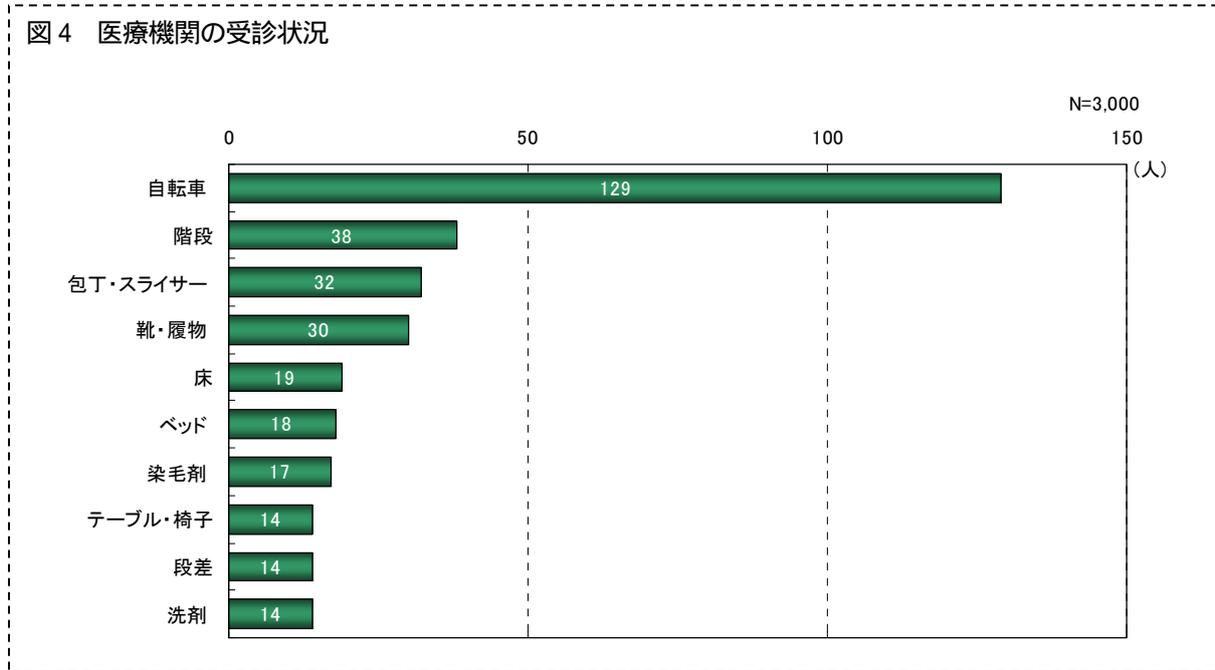
図3は、調査全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったもの(60人以上)を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験者が特に多いのは、「靴・履物」、「自転車」、「段差」等転倒に関するものだった。高齢になると、転倒や転落によるケガが寝たきりの原因になることもあるので、十分注意が必要である。

図3 ヒヤリ・ハットや危害経験



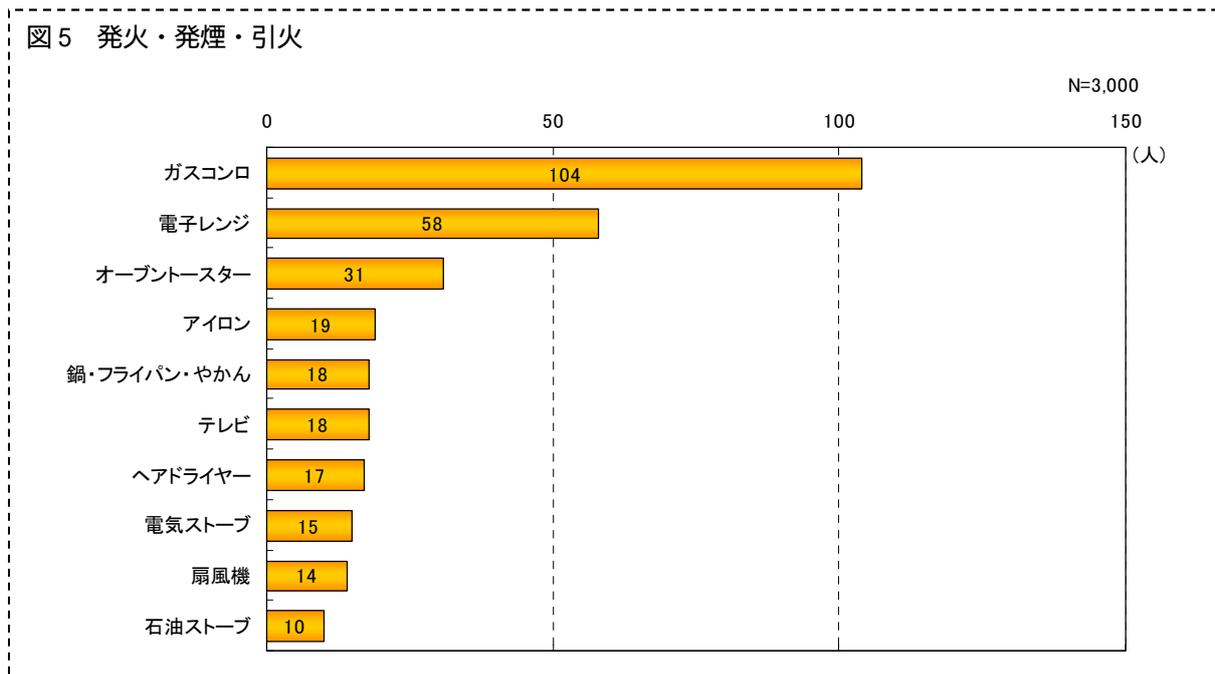
エ 医療機関の受診状況

図4は、危害経験のうち、「医療機関を受診した」と回答した人が多かったもの（上位10製品）を示している。「自転車」が129人で圧倒的に多く、次に「階段」が38人、「包丁・スライサー」が32人と続いている。



オ 発火・発煙・引火

図5は、危害経験のうち、「発火・発煙・引火した」と回答した人が多かったもの（上位10製品）を示している。最も多いのは、「ガスコンロ」（104人）で、次に「電子レンジ」（58人）、「オーブントースター」（31人）と続いており、調理器具が多くなっている。



(2) 台所

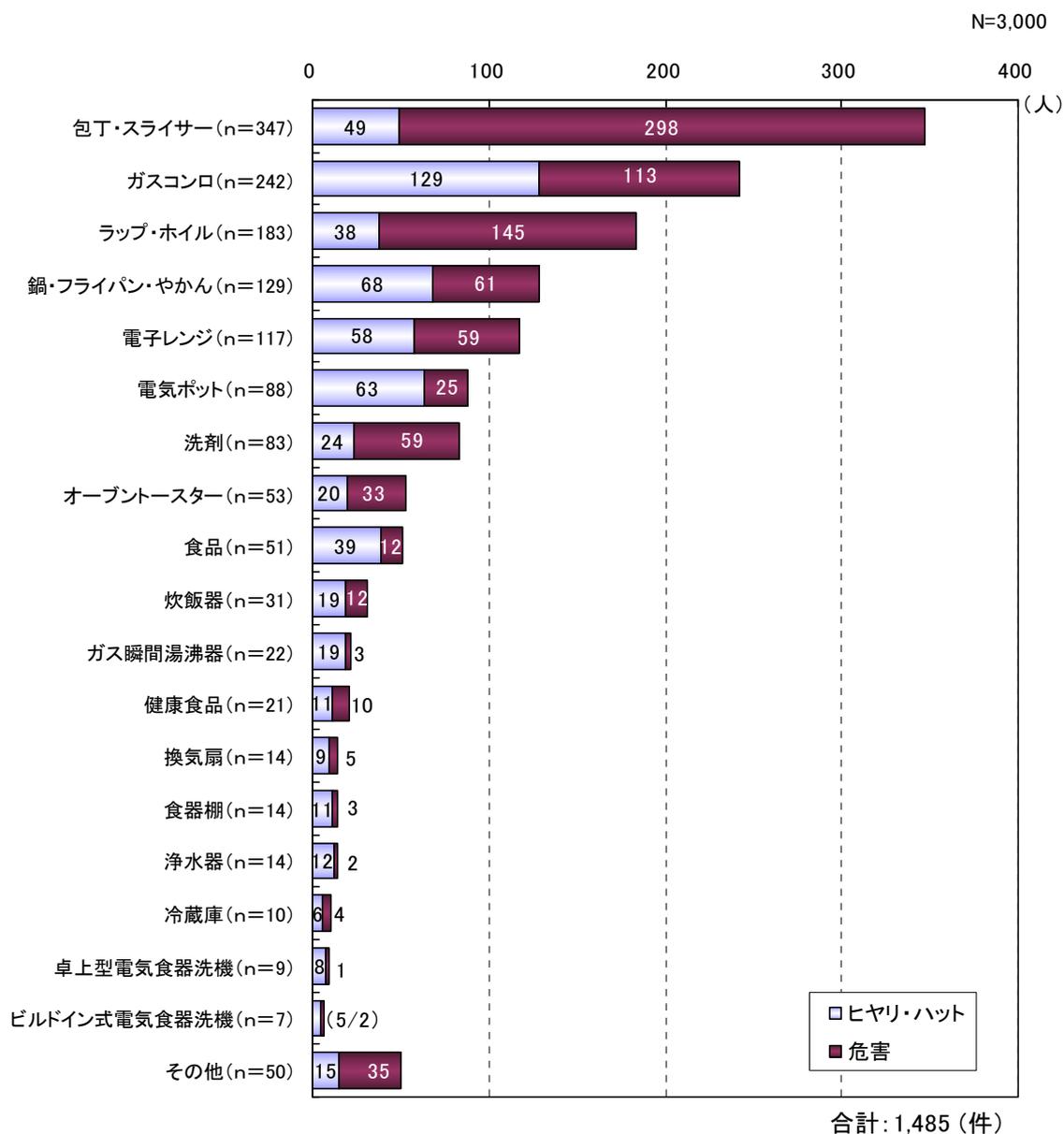
ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図6は、主に「台所」で使用する製品のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と答えたのは、「包丁・スライサー」が347人（ヒヤリ・ハット：49人、危害：298人）で最も多く、次に「ガスコンロ」が242人（ヒヤリ・ハット：129人、危害：113人）、「ラップ・ホイル」が183人（ヒヤリ・ハット：38人、危害：145人）と続いている。「その他」としては、「缶詰」、「食器」等があった。

また、「台所」全体としては、1,485件（ヒヤリ・ハット：603件、危害：882件）のヒヤリ・ハットや危害経験があった。

図6 「台所」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表1は、「台所」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。「包丁・スライサー」の具体的な内容を見ると、「包丁・スライサーで手を切った」事例が多かったが、中には、「落とした包丁が足に刺さってケガをした、ケガをしそうになった」事例（表 1:1~3）もあった。しっかりと包丁を握れなくなったことや、包丁を床に落としてしまった時にすばやく避けられないことがケガをする原因として考えられる。自分では大丈夫と思っても、鋭利なものを扱う時は細心の注意を払い、落ち着いて操作することが必要である。

他には、「ガスコンロを消し忘れた、鍋を空焚きした」事例も多く、中でも注目するものは、「腰が痛くなり、居間に行って横になっていたら火をつけているのを忘れて鍋を焦がした」という事例（表 1:16）である。類似事例として、「鍋をコンロにかけていたのを忘れてうたた寝した」（表 1:7）、「フライパンで肉を焼いているのを忘れて寝てしまった」（表 1:8）等もあった。加齢に伴う体力の衰えから長時間立ったまま調理するのが辛くなり、少し休もうとして台所を離れたことが消し忘れの原因のひとつと考えられる。また、「火を消したと勘違いした」事例（表 1:9,10）もあった。これらの事故を防止するためには、ガスコンロは安全装置付きのものを使用し、コンロのそばから離れるときは、短時間であっても必ず火を消すようにしなければならない。また、住宅用火災警報器が鳴って消し忘れに気が付いた事例（表 1:8）もある。住宅用火災警報器は必ず取り付け、日頃から点検をしておくことが重要である。



表1 「台所」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者
1	包丁が滑って落ち、足のつま先に刺さった。	60代男性
2	包丁がまな板の上から落ち、足に突き刺さった。	70代女性
3	握力が落ちて包丁を取り落とし、足元に落としてしまいハットした。	60代男性
4	指の力が衰えてきたため、野菜やフルーツの皮むき中に手を滑らし指を切る。先月は、かぼちゃを切っていてかなり深く切ってしまった。指は動きがととも悪くなっており、長年使いすぎたため骨が曲がっている。	70代女性
5	立ったままの包丁使いが年齢的に大変になったので、椅子に座ったまま食卓テーブル上で野菜を切ろうとしたところ、まな板が前方へずれ、親指を切ってしまった。	70代女性
6	スライサーを使って野菜をスライスしていて、指先も一緒にスライスしてしまった。スライサーを使い始めて間もない頃だったので、思ったよりも野菜の進度が速くて指先まで来ていることに気づかなかった。スライサーの刃もこんなに良く切れるとは思わなかった。使いにくいので野菜を抑える部品を使わなかったのが原因だった。	60代女性
7	鍋をコンロにかけていたのを忘れてうたた寝してしまった。焦げ臭いにおいて気が付き火を消したが、鍋に接触しやけどをした。	70代女性
8	フライパンで肉を焼いていたのを忘れ寝てしまった。肉が焦げて発煙したため火災警報器が鳴り目を醒ました。	80代女性
9	火の消し忘れて水が完全に蒸発した状態まで放置してしまった。。大きめの鍋だったので火が確認できず、消したと勘違いした。	80代男性
10	ガスの火を消したつもりが、弱火のままの状態に気が付かず、そのまま鍋を下ろそうとした際に手が熱い鍋に触れて鍋を落としそうになった。	70代女性
11	コンロの近くにあった油を拭いた新聞紙に引火し、気が付いた時には周囲の紙類に燃え広がった。消火に往生したが、幸い事なきを得た。	70代男性
12	寒い朝に綿の起毛した上着を着てガスに鍋をかけて点火した瞬間、上着の表面に火が回った。すぐ脱いで消したので大事に至らなかったが、心臓が止まりそうになった。	60代女性
13	着火がプッシュ式でわずかの力でプッシュできる。コンロを背に作業している時、弾みで背中から尻の部分がプッシュボタンに触れて着火していた。気が付かないままにキッチンから出て居間に行き、戻ったら火がついていて驚いた。	70代男性
14	ラップがスムーズに切れなかったため、無理に切ろうとしてカッター部分で指を切った。	60代男性
15	ラップを使い終わり、ゴミの分別をするため、金属部分を取り外そうとして、カッターで指を切った。	60代女性
16	腰が痛くなり、居間に行って横になってしまった。その結果、火をつけているのを忘れて鍋を焦がした。	70代女性
17	深いフライパンで揚げ物をした後、その油をオイルポットに入れようとしたら、取っ手のねじが緩んでいて、ポットを持っていた左手に熱い油がかかってやけどをした。	60代女性
18	長年使っているホーロー製の片手鍋でパスタをゆでるために湯を沸かしている時に、取っ手が根元から取れて熱湯が手にかかり、やけどをした。取っ手の本体の取り付け部分が腐食していた。	60代女性
19	やかんのふたをきちんとしていなかったため、ポットにお湯を入れている時ふたが外れて蒸気が手にかかり軽いやけどを負った。	70代男性
20	おにぎりを温めようとして、オートではなく手動で加熱時間を設定する際、秒と分を勘違いして長く過熱しすぎ、焦げた。焦げ臭いにおいて家族が気が付き、発火する前に止めることができた。	70代男性
21	電気ポットからお湯を出す時に手元が狂って手にお湯をかけてしまった。水疱ができるほどのやけどでしばらく通院した。	70代女性
22	指の力が弱いので、渾身の力を振り絞って勢いよく引っ張ったところ、缶のふたのへりで指を切ってしまった。	60代女性

(3) 浴室・洗面所・トイレ

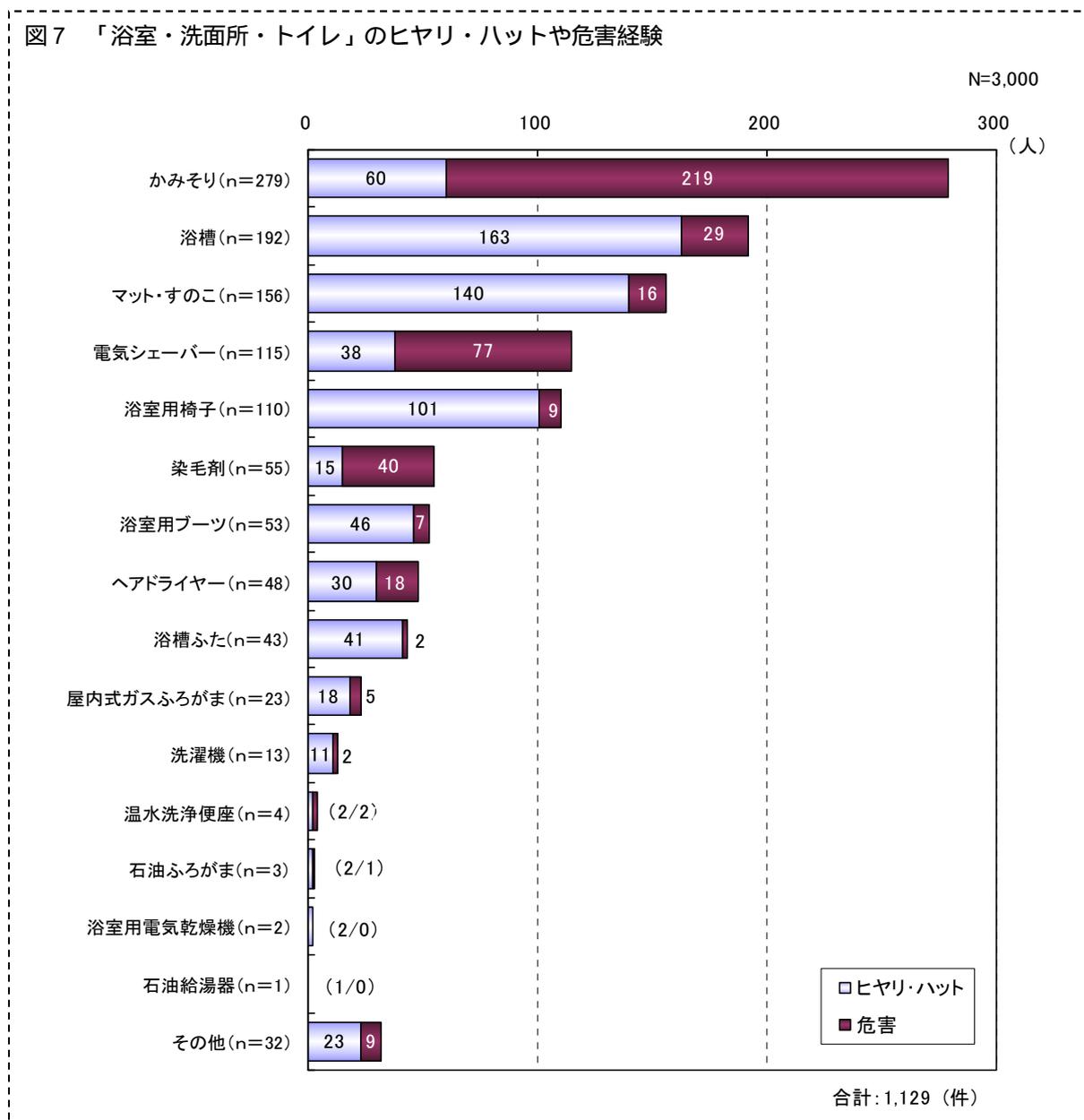
ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図7は、主に「浴室・洗面所・トイレ」で使用する製品のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と答えたのは、「かみそり」が279人（ヒヤリ・ハット：60人、危害：219人）で最も多く、次に「浴槽」が192人（ヒヤリ・ハット：163人、危害：29人）、「マット・すのこ」が156人（ヒヤリ・ハット：140人、危害：16人）と続いている。「その他」としては、「カビ取り剤」や「足ふきマット」等があった。

また、「浴室」全体としては、1,129件（ヒヤリ・ハット：693件、危害：436件）のヒヤリ・ハットや危害経験があった。

図7 「浴室・洗面所・トイレ」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表 2 は、「浴室・洗面所・トイレ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容をみると、「かみそりや電気シェーバーで顔を切った」事例が多かった。「電気シェーバー」の具体的な内容では、「網刃が古くなって破れていた」という事例（表 2:8）が多く、事故防止のためには使用前の点検が重要である。

「浴槽やマット・すのこで滑った」事例も多かった。「浴槽」の具体的な内容の中には、「浴槽の縁につかまって立ち上がろうとしたら滑った」事例（表 2:3~5）があり、事故防止のためには、手すりが必要である。また、「マット・すのこ」や「浴室用椅子」の具体的な内容の中には、「体や床に残った石鹸等が滑って転倒した」事例（表 2:6,9,10）があった。これらの事故を防ぐための対策として、浴室用の椅子は、底に滑り止めのついた大きめのものを選ぶ、床に残った石鹸等の泡をしっかりと流す、等がある。

他に、「染毛剤」の具体的な内容をみると、皮膚がかぶれて医療機関を受診したものが多かったので、使用前にはパッチテストを行うようにするとよい。

表 2 「浴室・洗面所・トイレ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者	
1	かみそり	かみそりでひげを剃っていて、頬や顎を切ることがよくある。皮膚がたるんできたことが関係しているかもしれない。	70代男性
2		風呂場で鏡を見ながらひげ剃りをしていた時、湯気で鏡面が曇り手元が見えなくなり左頬に傷をつけてしまった。	70代男性
3	浴槽	風呂から立ちあがろうとした時に、風呂桶の底が滑って尻もちをついた。風呂の縁をつかんでいたが、つかみ方が弱かった。	60代男性
4		浴槽に入ろうとした時に浴槽の縁に手をつこうと思ったがツルンと滑って、浴槽の縁に腰と首をぶつけ、お湯の中にプクプクと沈んでしまった。何とか自力で這い上がった。	60代女性
5		浴槽から立ち上がろうと、浴槽の縁にかけた腕に力を入れた途端、手が滑って転倒しそうになってヒヤリとした。	60代男性
6	マット・すのこ	マットにシャンプーが付着していたため、滑って転倒した。	70代男性
7		浴室に入ろうとして、すのこの上に足を乗せたところ、すのこが滑って動き、危うく転倒しそうになった。	60代男性
8	電気シェーバー	20年近く使っていた電気シェーバーの網刃が破れて顎と首筋の皮膚が切れ出血した。	70代男性
9	浴室用椅子	洗いの床に石鹸が残っていたため、座ろうとしたら椅子が後ろに滑り、尻もちをついた。壁に頭を打ちそうになり、ヒヤリとした。	60代男性
10		他の人が入った後で浴室に入り、椅子に座ろうとしたところ、床が濡れて石鹸分が残っていたのと、椅子の端に座ろうとしたため、椅子が滑ってしまい、尻もちをついた。	60代男性
11	染毛剤	白髪染めをしたら、頭皮の痛みを感じ、ふけがたくさん出た。皮膚科で治療をして治ったが、それ以来染毛はしていない。	70代女性
12		今年初めて染毛剤を使用したら、かぶれた。医者に行って薬をもらった。後日パッチテストを行い、合わない成分が含まれていることが分かった。	60代女性
13	浴室用ブーツ	浴槽の掃除をしようとして浴室用ブーツを履いて浴槽内に入ったところ、ブーツが滑って転び、捻挫をした。	70代男性
14	ヘアドライヤー	20年位使用した古いドライヤーがコードの劣化で使用中にショート、発火した。すぐにコンセントから引き抜いたため、大事に至らなかった。	60代男性
15	浴槽ふた	お風呂に入ろうとしてふたに手をかけたら、急にふたが滑って浴槽に手から突っ込み、手足を浴槽の淵にぶつけた。1週間程湿布治療をした。	60代男性
16	洗濯機	洗濯中に洗面所でドスンドスンという大きな音がするので慌てて電源を切ったが、暴れている洗濯機に腰、足をぶつけた。壁の一部が壊れ、床も傷だらけになった。	60代男性
17	温水洗浄便座	誤動作したのかモーターが動き続け、異臭がした。	60代女性

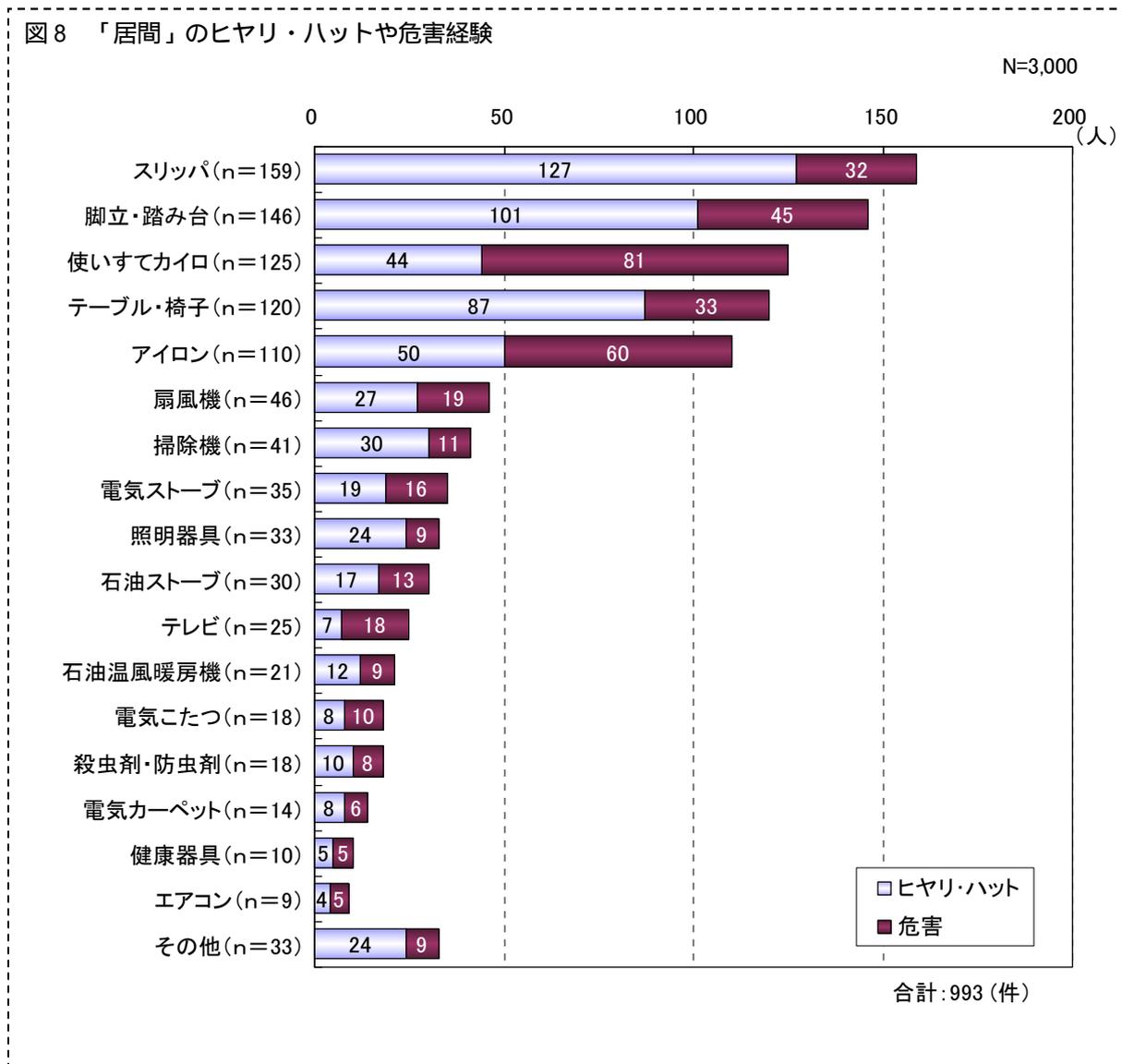
(4) 居間

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 8 は、「居間」等で使用する製品のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と答えたのは、「スリッパ」が 159 人（ヒヤリ・ハット：127 人、危害：32 人）で最も多く、次に「脚立・踏み台」が 146 人（ヒヤリ・ハット：101 人、危害：45 人）、「使いすてカイロ」が 125 人（ヒヤリ・ハット：44 人、危害：81 人）と続いている。「その他」としては、「じゅうたん」、「仏壇」等があった。

また、「居間」全体としては、993 件（ヒヤリ・ハット：604 件、危害：389 件）のヒヤリ・ハットや危害経験があった。

図 8 「居間」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表 3 は、「居間」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容をみると、「スリッパを履いていて転倒した」事例が多く、中には「自分が履いているスリッパをもう一方の足で踏んだ」事例（表 3:1~4）も多かった。スリッパと足のサイズが合わないことや、加齢に伴い足が動きにくくなることが原因と考えられ、この対策としては、スリッパではなく自分の足に合ったルームシューズを使用する方法がある。

他には、「脚立や踏み台から転落した」事例（表 3:6）も多かった。高いところからの転倒・転落事故は、骨折など重大な事故になることもあるので、脚立や踏み台を使わないと取れないような高い場所に物を置かないようにするのが望ましい。

注目するものとしては、「寒いので家でもコートを着ていたら、ストーブの火がコートに燃え移った」事例（表 3:20）があった。他にも「衣類の裾がストーブに付いて溶けた」（表 3:18,21）、「背中が焦げた」（表 3:22）等の類似事例があるので、ストーブには近づきすぎないように気を付けなければならない。毛足が長い衣服や裾が広がった衣服を着ている場合には着火する危険性が高く、火がついた場合にも気づきにくいいため、特に注意が必要である。



表3 「居間」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

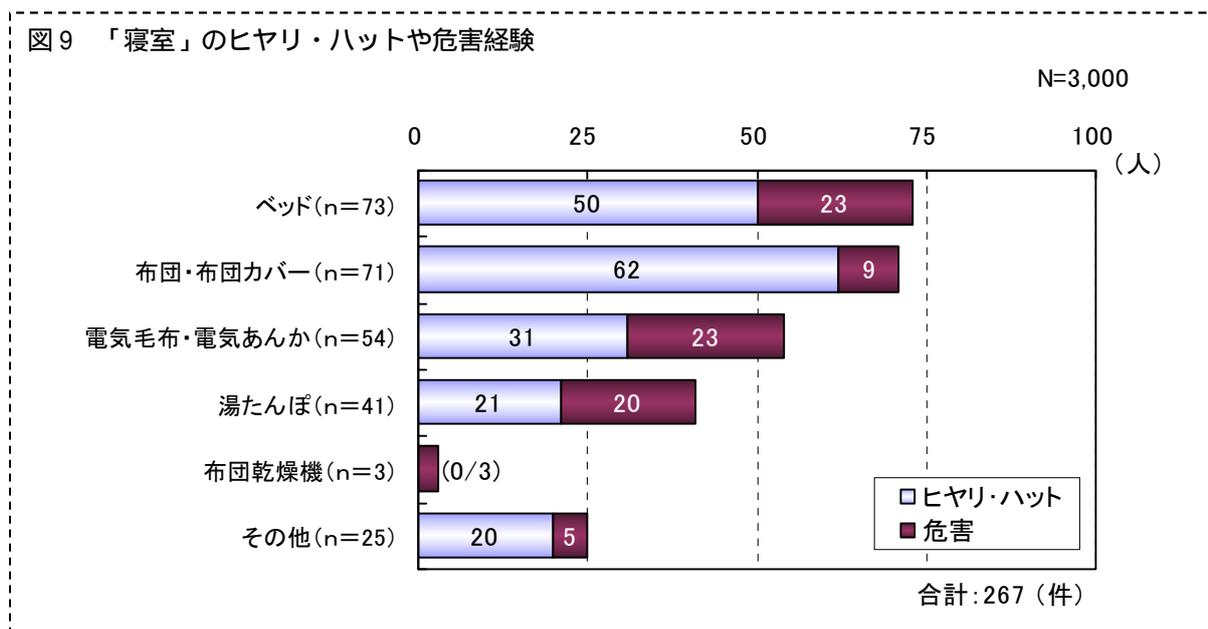
製品名	内容	回答者
1	自分の足のサイズより大きなスリッパを履いている。足を引きずって歩くようになって、前に出した足の後方部分から出ているスリッパの端を後ろ足で踏んでしまい、よろけて転倒し、頭と腕を強打して青あざができた。	80代女性
2	立ち上がり、スリッパを履いて少し歩いたところで足がもつれ、片方の足でもう片方のスリッパを踏んでしまい、危うく転びそうになった。	70代女性
3	スリッパ 冬用のスリッパを履いていて、スリッパの端を踏んでつまずいた。保温のためにについている毛を誤って踏んだことが原因である。	60代男性
4	スリッパを両方履いていて、振り向いた時、片方のスリッパをもう片方のスリッパで踏んでしまい、捻挫をした。	60代女性
5	寒くなってフリースなどの起毛系の靴下を着用していると、スリッパに引っかかってスムーズに履けないことがある。履いたつもりで身体を動かしたら、スリッパをきちんと履けていなくてつまずいてしまった。	60代女性
6	脚立・踏み台 踏み台に乗って書類を取ろうとしたら、バランスを崩して転落した。腰を打って動けなくなり、外科病院に入院した。プラスチック製でつるつるした物だったし、冬の寒い時期で靴下を履いていたせいで滑ったのかもしれない。	80代女性
7	かなり古い脚立で閉じる時になかなか閉じることができず、指を挟んだ。	80代男性
8	使いすてカイロ 腰痛になり、腰を暖めるために肌に直接貼ってやけどをした。直接肌に貼って使用してはいけないことを知らなかった。	70代男性
9	貼り付けるカイロだったが、夜うたた寝をしている時に、皮膚が急に熱くなって見てみると、赤くなっていた。室内が暖かかったので、取り外すべきだった。長時間用であったので、それ以降普通のカイロを買うことにした。	60代女性
10	立ち上がるうとして肘掛けに手を置いて体重をかけた時、手が滑って転んだ。	70代女性
11	椅子 長年使っているせいか、椅子にガタがきていて、座っている間に脚が外れて転倒した。めったにないことなので油断していて体重をあずけていただけに、かなり驚き、腰を痛めた。	60代女性
12	回転椅子に座る時、よろけて座り損ね、尻もちをついた。左側の腰部が1か月位痛かった。その後、腰痛に見舞われるようになった。	60代男性
13	テーブルの上に乗って天井の蛍光灯を交換しようとしてテーブルの端に移った時、テーブルと一緒に自分も倒れて肘を打った。	60代男性
14	アイロン アイロンを消し忘れていたことを気付かず、アイロンを収納しようとして触ってしまい、手をやけどした。	60代男性
15	扇風機 シーズンの終わりに手入れをして、その作動を確認する時に、不用意に手に持っていたものを巻き込まれ、ケガをしそうになった。	70代男性
16	扇風機(卓上用)を一晩中回しっぱなしにしていたら、朝になって焼けた臭いがした。その後、回転しなくなった。	60代男性
17	掃除機 掃除機のコードに足を引っ掛けて転んだ。病気で入院した後だったので、足腰が弱っていてバランスが取れなかった。	60代男性
18	電気ストーブ 自分のうっかりミスで、コートの裾がストーブに付いてしまい、化学繊維だったので燃えずに溶けた。厚手のコートだったので体は熱さを感じなかった。	70代女性
19	照明器具 電球とソケットの間が割れていて、電球が落ちそうになった。気付かずに下にいたら頭に電球部分が落下していたかもしれない。	60代男性
20	石油ストーブ 元々寒がりだが、加齢とともにますます寒さを感じるようになった。部屋を暖房していても「寒い寒い」を連発し、室内でもふかふかのコートを着ていた。子供が石油ストーブをつけていて、その前を通った時、長い毛足にストーブの火が燃え移った。自分では気付かず、子供が気付いて事なきを得た。	60代男性
21	石油ストーブ ストーブに近づきすぎたか、通り過ぎる時に触れたかだと思いが、化学繊維の洋服の裾が溶けていた。	80代女性
22	石油ストーブ 着衣の背中が焦げた。	70代女性
23	テレビ 普段は使っていない古いテレビがコンセントに差したままになっており、埃がたまっていて電源を入れたら火が出た。幸い棚を焦がしただけで済んだ。	60代女性

(5) 寝室

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図9は、主に寝室で使用する製品のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と答えたのは、「ベッド」が73人（ヒヤリ・ハット：50人、危害：23人）で最も多く、次に「布団・布団カバー」が71人（ヒヤリ・ハット：62人、危害：9人）と続いている。「その他」としては、「たんす」、「マットレス」等があった。

また、「寝室」全体としては、267件（ヒヤリ・ハット：184件、危害：83件）のヒヤリ・ハットや危害経験があった。



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表 4 は、「寝室」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容をみると、「ベッドから転落した」、「布団につまずいた」等の事例が多く、中には、「ベッドから転落し、そばにあった犬のゲージに足をぶつけてケガをした」(表 4:3) や「近くにあった棚に顎をぶつけて打撲した」(表 4:8) 等、周囲にあるものに衝突してケガをした事例があった。家具等の配置の工夫が必要である。

また、「電気あんかでやけどをし、完治するまで約 3 ヶ月かかった」事例(表 4:10)もあった。高齢になると寒さに弱くなるが、電気あんかや電気毛布は、寝る前にあらかじめ布団を暖めておき、就寝時には電源を切らなければならない。

表 4 「寝室」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者	
1	夜中に寝返りをした時にベットから転落して腰の骨を骨折し、約 2 ヶ月入院をした。	70 代女性	
2	ダブルベッドで夫婦で寝ているのですが、ベッドが狭いので落ちてしまった。ゴミ箱がすぐそばにあったので、ゴミ箱に腰をぶつけて痛めた。	60 代女性	
3	柵のないベッドで起き上がる時に方向を間違えて転落した。そばにあった犬のゲージに足をぶつけてすり傷ができた。	60 代女性	
4	ベッドから降りる時に、床の上に落ちてあった物を踏みそうになり、空足を踏んだためぎっくり腰になった。医療機関を受診し、完治するまで 1 週間程度かかった。	60 代男性	
5	部屋が狭いので、約 30 年前の学生用の木造ベッドを使用している。就寝時にエッジに近い部分に立ったら、ミシリと音がして横板の補強用の棧が折れて転落しそうになり、近くの整理たんすにつかまって事なきを得た。その後も手持ちの木材で補強し、継続利用している。	70 代男性	
6	介護ベッドの両脇に付いている可動式手すりを倒した時に手を挟んだ。数日間、挟んだ手が痛かった。	60 代男性	
7	夜中にトイレに行く時、布団につまずいて、座卓の角に腰をぶつけた。医療機関に 2 回通い、今もあとが残っている。	70 代女性	
8	布団・ 布団カバー	ベッドカバーの裾に足を取られてつまずいたが、たまたま正面に腰位の高さの柵があり、その縁に顎を強打して倒れた。打撲で内出血して完治するのに 1 ヶ月かかった。	80 代女性
9	電気 あんか	寒くて電気あんかを使用している。あんかの上に足を乗せて就寝したら、熱くて目が覚めた。低温やけどのようで、足が赤くなっていた。	60 代女性
10	電気 あんか	電気あんかを使用して水ぶくれができ、医療機関を受診し、完治するまでに 3 ヶ月程度かかった。	70 代男性
11	湯たんぼ	何十年と使っていた沸かすタイプの湯たんぼで低温やけどをした。若い頃は熱くなると自分でよけていたのに、70 歳を過ぎた頃から分からなくなり低温やけどをするようになった。	70 代女性
12	布団 乾燥機	コンセントにつなげたところ火花が出て発火したので、使用を中止した。	60 代女性
13	その他 (たんす)	昔から使っていた木製の高価格なたんすの重い引き出しを引きすぎて体の上に落とし、打撲した。	80 代女性

(6) 屋外・ベランダ

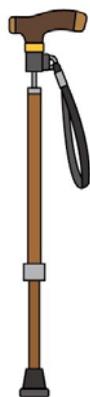
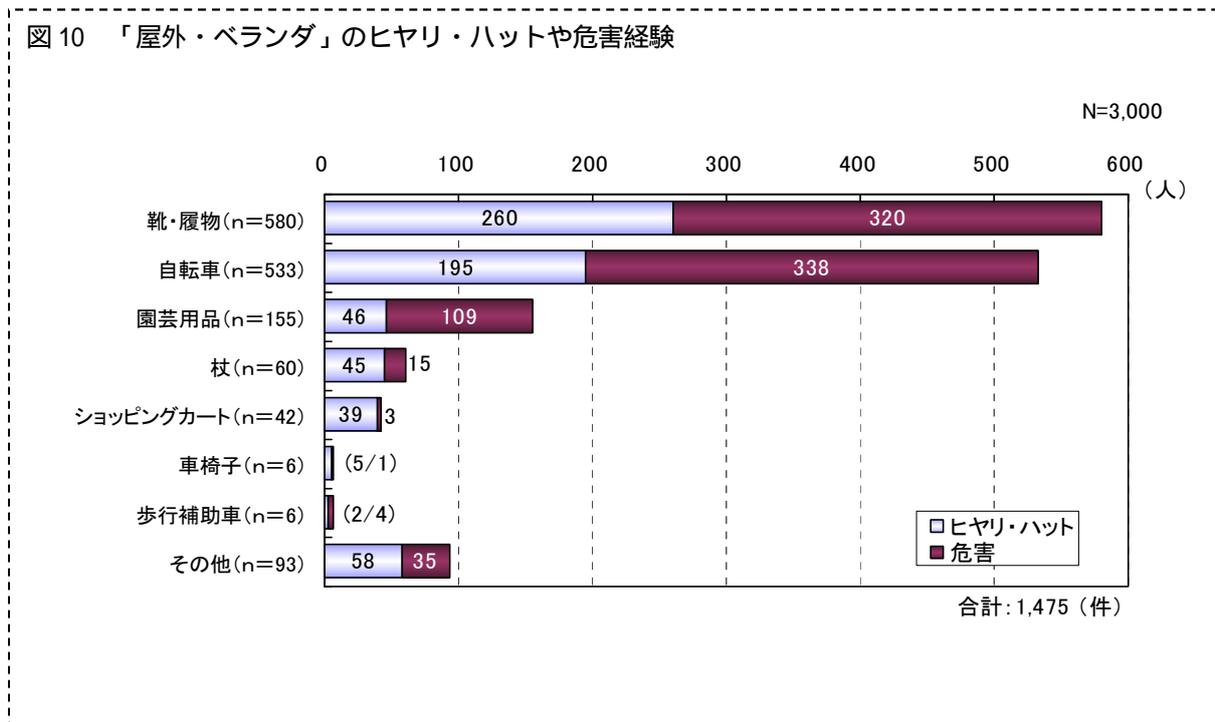
ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 10 は、主に屋外やベランダで使用する製品のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。

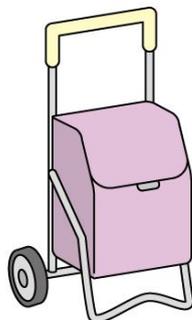
ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と答えたのは、「靴・履物」が 580 人（ヒヤリ・ハット：260 人、危害：320 人）で最も多く、次に「自転車」が 533 人（ヒヤリ・ハット：195 人、危害：338 人）と続いている。「その他」としては、「物干し竿」や「植木鉢」等があった。

また、「屋外・ベランダ」全体としては、1,475 件（ヒヤリ・ハット：650 件、危害：825 件）のヒヤリ・ハットや危害経験があった。

図 10 「屋外・ベランダ」のヒヤリ・ハットや危害経験



杖



ショッピングカート



歩行補助車

イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表5は、「屋外・ベランダ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容をみると、「靴が滑って転倒した」、「自転車で転倒した」等、転倒に関する事例が多く、中には、「雨の降る日に横断歩道を渡ったら靴が滑った」(表5:3)「雨の日、自転車がスリップして転倒した」(表5:5)等の事例があり、路面が濡れている時には特に注意が必要である。靴は足に合った滑りにくいものを選び、自転車は天候が悪い時には乗らないようにしなければならない。

「杖」の具体的な内容の中には、「杖先のゴムが減っており、歩道で滑った。」(表5:10)、という事例があった。杖を使用する場合は、日頃から杖先の磨耗状況を点検し、磨り減っていたら交換するなどの対策が重要である。

他には、「園芸用殺虫剤が目に入った、吸い込みそうになった」事例(表5:7,8)があった。スプレーの操作時には、噴出し口の方向をよく確認するほか、噴出し口方向が合っても風向きなどによっては薬品を吸い込んでしまうこともあるので、ゴーグルやマスク、手袋を必ず着用しなければならない。

表5 「屋外・ベランダ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者
1	今までは何でもなく履けていた靴だったが年齢と共に足も小さくなったのかその日は靴ずれが酷くて引きずるようにして帰った。なかなか治らないと思っていたら爪がはがれた。	70代女性
2	靴・履物	
3	少し大きめな靴だったので、平らな道路で転びそうになり、前を歩いていた人にぶつかってしまった。	60代女性
4	新しい靴だったが、雨の降る日に横断歩道を渡ろうとした時に靴が滑って転倒した。	60代女性
5	サンダル履きで近くのコンビニに買い物に出かけたら、歩道の敷石のわずかな段差に足を取られ転倒し、すり傷を負った。	80代男性
6	自転車	
7	外出時、途中から雨が激しくなり、前方で車が渋滞していたので車道から歩道に上がろうとしたら、雨で歩道の縁石がはっきりと確認できずにスリップして転倒した。膝下骨折で全治1ヶ月だった。	60代男性
8	高齢になってバランスが取れなくなり、急なブレーキで転倒し、骨折した。	60代男性
9	園芸用品	
10	殺虫剤を噴霧しようとしたところ、穴の位置がよく見えずノズルを押したら自分の方へ出てきた。目に入ったので何度も洗ったが、翌日まで違和感があった。	70代男性
11	アメリカシロヒトリが大発生したので市販の殺虫剤を購入した。説明文が読みにくいので、老眼鏡を使ってひととおり読んだ。注意して使う気であったが、屋外には老眼鏡をかけて出なかったので薬剤の噴霧口が見えにくくて、あやうく吸い込みそうになった。	60代女性
12	杖	
13	杖先が滑って尻もちをつき、腰を打ってしまったので、病院で診察を受けた。	80代女性
14	杖先のゴムが減っていたので、雨上がりに出かけた時に歩道で滑った。	60代女性
15	歩行補助車	
16	座面を倒して座れるタイプの歩行補助車を使用中だが、ストッパーをかけそびれたのに気が付かず、そのまま座ろうとしたらずるずると歩行補助車が後ろへ動き、転倒してお尻を打撲した。	70代女性
17	3年位前、慣れていた歩行補助車に足の動きがついて行けなくなり、歩行補助車を押しながら前のめりに倒れ顔、体、手足にケガをした。それ以降は車椅子を使用している。	80代女性
18	その他(物干し竿)	
19	ベランダで洗濯ものを物干しに吊るして、それを高さ210cm位のところに上げようとしたところ、失敗して棒が落ちてきて、頭を直撃した。年齢とともに腕の力がなくなってきたせいだと思う。	60代女性
20	その他(植木鉢)	
21	マンションの狭いベランダに植木鉢をたくさん並べており、水やり等の時、踏みつけないうち歩こうとしたが、誤って足をぶつけ、転倒した。	70代男性

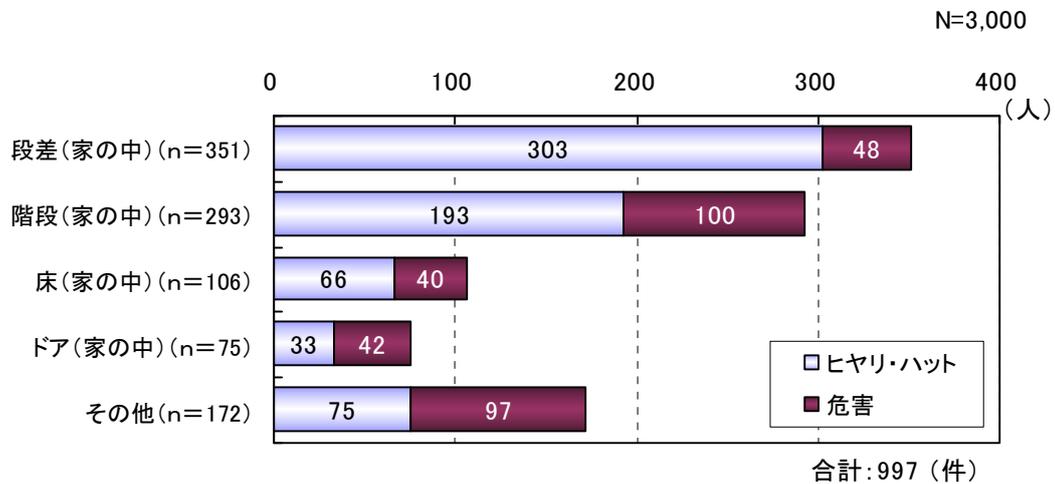
(7) その他（階段・段差等）

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 11 は、「その他（階段・段差等）」のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答したのは、「段差（家の中）」が 351 人（ヒヤリ・ハット：303 人、危害：48 人）で最も多く、次に「階段（家の中）」は 293 人（ヒヤリ・ハット：193 人、危害：100 人）と続いている。「その他」としては、「階段（屋外）」や「マンションの廊下」等があった。

また、「その他（階段・段差等）」全体としては、997 件（ヒヤリ・ハット：670 件、危害：327 件）のヒヤリ・ハットや危害経験があった。

図 11 「その他（階段・段差等）」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表6は、「その他(階段・段差等)」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容をみると、「階段に置いていた衣類や床に置いていた新聞紙を踏んで滑った」(表6:5,9)等、足元に置いていたものが転倒の原因になった事例があった。事故を防ぐためには、足元のつまずきやすいものを取り除き、整理整頓を行わなければならない。

また、「階段」の具体的な事例の中には、「階段が暗かったため、足を踏み外した」事例(表6:3,4)があった。階段は、十分な明るさを確保し、手すりを利用して一段ずつ足の位置を確認しながら上り下りすると足を踏み外す危険が少なくなる。また、「スリッパが滑った」という事例(表6:6,7)も多かったので、階段ではスリッパを履かないほうが安全である。

表6 「その他(階段・段差等)」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者	
1	段差 (家の中)	ベランダから居間に入る段差につまずいて転倒し、支えた手首を骨折した。	80代 女性
2		床に這わせていたコードにつまずいて止まることができず、リビングと和室の5センチほどの段差を左足の親指で蹴ってしまい、親指を骨折した。	60代 男性
3	階段 (家の中)	階段を下りる時、やや暗かったので最後の1段を踏み外し、右足首を捻挫した。	60代 女性
4		夜、照明をつけないまま階段を下りようとして、階段を踏み外し転落した。	70代 男性
5		階段が暗く、たまたま黒っぽい色の衣類が階段に置いてあるのに気が付かずその上に乗る、足を滑らして転倒した。足首を捻挫して市販の湿布薬で治療した。	60代 男性
6		スリッパが滑って階段下に落ち、壁に頭をぶつけた。	60代 男性
7		普段は2階で生活しているが、その前日に天ぷらを揚げて、その油がスリッパについていたらしく、朝、新聞を取りに行った際に階段で滑ってしまい、尾てい骨を骨折した。	60代 女性
8	床 (家の中)	居間に入る際、ドア内側に敷いたカーペットがはがれて転倒し、右手を骨折した。	60代 女性
9		和室の部屋に読みかけの新聞やチラシが置いてあり、それをよけて通ろうと思ったが、よけきれずその上に乗ってしまい、滑った。	70代 女性
10	ドア (家の中)	荷物を抱えたまま無理な体勢でドアを押し開け入ろうとしたら、ドアが閉まって指を挟んで血豆が出来た。重いドアなので開け閉め自体が大変だった。	60代 女性
11		重いドアで開けると勝手に閉まるものなので気をつけてはいたが、買い物荷物を片手に持っていたため、力が入らず指を挟んでしまった。	80代 女性
12	その他 (外階段)	仕事場の外階段が雨で濡れている時、滑ってすねを打ち、内出血をして足が腫れた。	60代 女性
13	その他 (マンションの廊下)	マンションの廊下に小雨が吹き込みわずかに濡れていたが、それが見えずに滑って尻もちをつき、骨折して入院した。	70代 女性
14	その他 (店のドア)	店に入る時、手動ドアを自動と間違え、体当たりして額を内出血した。	70代 男性

4. まとめ

60歳以上の男女3,000人を対象に、過去5年以内のヒヤリ・ハットや危害経験の有無を調査したところ、1,989人(66.3%)が日常生活でヒヤリ・ハットや危害の経験が「ある」と答えた。

また、アンケート調査全体では、6,346件のヒヤリ・ハットや危害の体験を収集し、「厚着をしていたら衣服にストーブの火が燃え移った」、「腰痛があり、少し休もうとガスコンロのそばを離れたら火を消し忘れて鍋を焦がした」等、シニア世代の身の回りには様々な危険が潜んでいることがわかった。

ヒヤリ・ハットや危害経験が多いのは、靴・履物、自転車、段差等により転倒した事例だった。事故から身を守るためには、日常生活でこまめに体を動かして筋力やバランス能力の維持を心がけるとともに、身の回りの整理整頓を行う等周囲の環境を整えておくことが大切である。

5. 結果の活用

- (1) 事故防止のポイントをまとめた「シニア世代の身の回りの事故防止ガイド」により、都民へ結果を情報提供し、事故の未然防止を図る。
- (2) 収集したヒヤリ・ハット体験を商品の安全性に関する調査を実施する際に活用する。
- (3) 事業者団体等へ調査結果を情報提供する。